

栃木県 EV・PHV 充電インフラ整備ビジョン

平野部から山岳部まで変化に富む地域特性のそれぞれのニーズに合った充電インフラ整備の方向性を定めて、490基の整備を目指す。特にユーザーの利便性が高い道の駅には複数基の設置が望ましいとしている。

“栃木県の道の駅に来れば充電できる” わかりやすいコンセプトで観光振興に



日光市では市内の3カ所に急速充電器を設置し、EV観光を後押しする

現状

早くも目標数を突破!

2013年6月末時点で、EV・PHVは1033台(EV726台、PHV307台)と目標を突破した。急速充電器も、空白地域の解消に重点を置いた補助金を実施したことで、空白地域はゼロとなり、設置数も目標の倍の51基となった。

目標

2013年度まで1000台

栃木県のEV・PHVタウン構想では、EV・PHVを2013年度末までに1000台普及させることを目標に掲げた。また、急速充電器は、空白地域の解消を目指し、20kmメッシュごとに1基以上、計25基を整備目標とした。



1 普通充電器を2基設置した「ホテル花庵」 2 「NASUのラスク屋さん」では店舗入口のすぐ近くに急速充電器を設置 3 充電中はセンター内の展示を見学する人も多い「那須高原ビジターセンター」

栃

木県が「EV・PHVタウン構想」で掲げた5つのモデル事業のなかで、最も重点を置くのが「レイル&EV観光モデル事業」だ。

日光、那須高原という自然の豊かな人気の観光地にとって、鉄道とEV・PHVを組み合わせた環境に優しい旅行の実現は、今後の観光振興を考えるうえで大きな可能性を秘めている。

具体的にはEV・PHVのレンタカーやタクシーを使う。また、これらのエリアでは、県も充電インフラの整備に対して重点的に補助金を出している。ホテル・旅館をはじめ、人気のスイーツ店といった民間事業者が、顧客サービス向上のために充電器を設置する動きも活発化している。

また、これらのエリアでは、環境省の「那須高原ビジターセンター」の土地の一部を栃木県が借りて、募金方式による急速充電器を設置したことで、課題とされている課金のあり方を検討するアイデアとして注目したい。

レイル&EV観光モデル事業の推進によって
県内の観光ももっと活性化させていきたい

今後の展望

道の駅にインフラ整備

東北自動車道SAへの急速充電インフラの整備が進むと、一層の普及が見込まれる。「道の駅」への急速充電インフラ整備のために、補助金を確保するなど、今後も積極的な取り組みが予定されている。

利用者の視点

県主導で積極的に活動

日光や那須エリアにあるホテルやラスク屋さんといった観光施設や那須高原ビジターセンター等、多様な場所に充電インフラが整備。利用者からは「便利だ」「ここに充電器があってとっても助かった」等、多くの好意的な意見が寄せられている。